



あおりいのちの電話

2023年初夏 63号



新緑の睡蓮沼

写真提供:岩谷 和子

まだ残雪残る八甲田の峰々が湖面に映り美しい光景を見せてくれます。この時期は沼の水もまだ冷たく水生植物が繁茂していないので、湖面は鏡のように美しく輝いています。水辺には名前の由来となったスイレン科のエゾヒツジグサが自生しており夏場には白く綺麗な花を湖面に咲かせます。

相談電話	0172-33-7830	(毎日12:00~21:00)
いのちの電話ナビダイヤル	0570-783-556	(毎日10:00~22:00)
県民フリーダイヤル	0120-063-556	(毎月1日、15日12:00~21:00)
自殺予防フリーダイヤル	0120-783-556	(毎月10日8:00~翌日8:00)



この広報誌は、赤い羽根共同募金の助成を受けて発行しています。

あおもりのいのちの電話を継続するために

～理事長就任から1年たち、思うこと～

認定NPO法人あおもりのいのちの電話理事長 藤林 正雄

日ごろから「電話相談等による自殺予防」活動という市民運動を行っている「あおもりのいのちの電話」へのご理解とお力添えをしてくださっている方々、ひいては電話のかけ手の多くの方々に深く感謝申し上げます。

—継続するためには—

また、理事長に就任し1年になりますが、活動を継続することの大変さを実感しています。拙い理事長を支え、助力して下さった方々にお礼申し上げます。

さて、これまでと同じことを踏襲することが継続ではないと思っています。同じことを繰り返すのであれば活動は衰退していくからです。社会の変化に合わせ時には先取りし、これまでの事業を見直し発展させるということでは継続はあり得ないでしょう。変化・発展させることが活動の継続と言えるのです。

あおもりのいのちの電話では「メール相談」や「孤独・孤立相談ダイヤル（内閣府）」への参画、市町村が行う自殺対策事業の委託など新たな試みに挑戦しています。今後は「チャットBPO（ビジネス・プロセス・アウトソーシング）」などITをどのように活用し、いのちの電話に取り込んでいくのかを検討する必要があります。十分な情報と知識を持っていませんから、ぜひご協力をお願い致します。

—5つの目標—

さて、1年前の機関誌に、①知名度を上げる、②財政基盤を築く、③組織体制を強化する、④24時間の電話相談、⑤相談員の

力を地域に生かす、という目標を掲げました。ただ、結果として5つの目標はそれほど進展していません。お詫びします。

「知名度を上げる」とは、言いかえると「あおもりのいのちの電話」を地域の人たちに知ってもらうことです。「いのちの電話」という名前は聞いたことがあるが、どのようなことをしているのかよくわからないという話を何度となく聞きました。「いのちの電話」がコロナ禍の影響を受け自殺者が増え、メディアに取り上げられる機会が増えました。相談員を希望する方も以前に比し増えています。しかし、社会不安を契機にしたものと捉えると「あおもりのいのちの電話」の努力の結果とは言えません。地道な広報活動や多様な機会をとらえ広めていくことが必要です。ぜひ、会員や関係者の方々が「いのちの電話」を話題にして下さるようお願い致します。

次に「財政基盤を築く」ですが、「知名度を上げる」や「組織体制を強化する」、「相談員の力を地域に生かす」と密接に関連しています。「あおもりのいのちの電話」の活動は会費・賛助会費、寄附金、補助金によって賄われています。

概算ですが、運営費のそれぞれ1/3ずつの収入になっており、会費・賛助会費と寄附金が減少するとすぐに立ち行かなくなります。令和4年度は本当にぎりぎりの運営で苦しい状況でした。令和5年度は会費・賛助会費と寄附金の増額を見込んで活動予算を作成せざるを得ませんでした。そのためにも、「いのちの電話」の理解者・協力者

を増やすことが第一です。非常に危機感を持っています。

相談員の中にはボランティアとして相談活動を支えているほかに会費や賛助会費まで支払うことに抵抗感があるという声も聞いています。加重的負担を相談員に求めているのは本当ですし、確かにその通りだとも思います。ただ、「『電話相談等による自殺予防』という市民運動」という趣旨をご理解いただき、平身低頭お願いするほかありません。

他方、経費節減という視点から見ると概算で、事務経費が1/3、研修経費が2/3となっています。このため、多岐にわたる多くの事務量にもかかわらず、常勤の事務局員を採用することができない状況です。また、研修経費では相談員養成にかかる経費が多くを占めています。相談員養成には多くの時間と経費が掛かります。一人の相談員を養成するためには多額の経費が必要です。その他、相談員のための研修等があります。これらの経費は「あおもりのちの電話」の根幹をなす経費です。通信費も全く同様であり、「電話相談」に欠かせない経費です。

なお、補助金は相談員養成と相談員の研修、公開講演会等と使用目的が限定されています。その上、全額を補助するわけではなく、持ち出しが必ず必要になります。ぜひ、これらの点をご理解いただき、お力添えを心からお願い致します。

「24時間の相談体制づくり」については、相談員数の確保が前提となりますが、現時点では困難ですし、時間がかかります。

「相談員の力を地域に生かす」では、多くの時間をかけて相談員として養成し、相談員となってからも電話相談の担当、継続研修、スキルアップ研修など研修が継続されています。私見ですが、相談員のスキルや能力は相当高いと自負しています。この力を地域に生かすことが必要だと思っています。他方、「相談員であることを明かさな

い」「相談員の匿名性の担保」という制約があり、二律背反の状況を乗り越えるという課題が課せられています。何か乗り越える方法がないだろうかと模索しています。ただ、自治体等の自殺対策事業を「あおもりのちの電話」が受託することは良いチャンスだと捉えています。受託事業の中で相談員の力が生かせる機会を作っていきたいものです。

話題が変わりますが、私は日ごろから「適当」「いい加減(好い加減)」という言葉が好きで、できればそう行動したいと思っています。一般的には「雑にやっておく」「投げやり、おざなり」という意味で使われることが多く好ましくない言葉となっています。ただ本来「適当」は「ある目的・状態・要求などにぴったり合っていること。相応しいこと。また、そのさま」、「いい加減」は「かたよることなく、常に変わらないこと。過不足なく調和がとれていること。また、そのさま」という意味です。

そこには、全体を俯瞰する目、あるいは全体を把握する目と個々の状況を理解・把握する目を用いて調和をとることを意味しています。つまり、「中庸」に近い言葉です。できればこういう行動がとれる人間になりたいと望んでいます。現実には程遠い人間ですが、温かく見守り、支援して下ることを願っています。

さて、来年度は「あおもりのちの電話開局30周年」の年です。ぜひ、地域の人たちに「あおもりのちの電話」を理解して頂ける機会にしたいと思っています。ご協力を切にお願いします。

最後に、これからも「あおもりのちの電話」に多くの方々のご理解とご協力をお願い致します。また、かわりのある多くの方のご健康を祈念しています。

資金ボランティアとして皆様のご支援を！

あおもりいのちの電話は、相談電話、相談員養成費、広報活動費、センター管理費等で、年間600万円が必要です。皆様のご理解とご支援で活動していますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

☆ 正会員

(個人) 年間 6,000円

☆ 賛助会員

(個人) 1口1,000円/年(何口でも)

(団体) 1口3,000円/年(何口でも)

+個人・団体とも年間で3,000円以上寄付をくださった場合、税制上の優遇措置があります。

◇振込先

①郵便振替

02300-2-3761

特定非営利活動法人あおもりいのちの電話

②みちのく銀行 弘前営業部 (替) 2009914

特定非営利活動法人あおもりいのちの電話

特定非営利活動法人あおもりいのちの電話

〒036-8691 青森県弘前郵便局私書箱29号

事務局

TEL 0172-38-4343

FAX 050-3488-9077

E-mail aomori@inochi-a.net

URL <https://inochi-a.net>

Facebook 「あおもりいのちの電話」で検索

発行日 2023年5月

発行人 原林 正雄

編集 事務局

